

守る！逃げる！判断して行動する！
災害時 その2
いっしょに考えていこう～BCP～

- 町内会と一緒に、災害時事業計画を考える
災害時BCP訓練として、町内会などと防災活動等の連携強化に努める必要があります。
 - どんな活動、訓練ができるか考えてみました。
 - ・町内会が開催している火災訓練と一緒に参加させていただく。
 - ・南区ささえあい課に指導を受けながら訓練する。
 - ・備蓄食料を地域の方と試食する。
 - ・炊き出し訓練をする。
- 災害時を想定して、動きを考えたりすることで、必要なもの、足りないもの、地域の方をお願いしたいことなど、またBCPに肉付きができてくると思います。訓練の際は、ご協力をお願いいたします。

理事 正田恵一

和光園だより



玄関の飾り棚は、季節のお花でいつもいっぱい♥
癒しの空間です♪



調理スタッフ募集中

- 【給与】 月給 19万～
- 【時間】 早出 6:30～15:30
日勤 9:00～18:00
遅出 10:00～19:00
- * 遅出のみも可能
- 【休日】 月9日
- 【待遇】 各保完備、退職金制度あり
賞与年2回、一時金年2回
交通費支給 (55,000円迄)
- 🍷 カーブ年間指定席あり！
- 🍷 管理栄養士を中心に、食べて喜んでいたきたい！きもちを大切に食事作りができる職場です！
- 🍷 ふれあい あたたかいをモットーに喜びを共にできる法人です♪
お待ちしております♪

研修報告『明日から実践！あなたもできる褥瘡予防対策・アセスメント』

講師：黒木さとみ氏
(医療法人若松会TFメディカル嶋北内科・脳神経外科クリニック
診療看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師)

報告者 看護師 遠藤奈美

褥瘡は最新の褥瘡治療でも、よく効くと言われている軟膏や創傷被覆材を使用しても、褥瘡が発生した原因・要因を取り除かなければ、絶対によくならない。「なんでできたか？」を考え、必要な環境を整えることが最重要。体圧分散寝具の上に防水シート等を重ねると、沈み込みの機能を十分に生かせなくなる。どのメーカーのマットレスも便や尿で汚染されても内部に汚染物が侵入することはない、拭き取りがきれいになる。マットレスの上は、シート一枚が最も勧められる方法。

ケアマネジャーを対象としたリスクマネジメントスケールや床ずれ危険度チェック表等がある。褥瘡が発生してから対策を考えるのではなく、褥瘡を発生させないための予防手段として活用する。褥瘡を発生させない為に、看護師だけでなく、多職種連携が重要であると考えます。

褥瘡の発生を予防するためには、入所時や状態が変化した場合に褥瘡発生リスクを検討し、褥瘡予防委員会を中心として対策を立てる必要があると感じました。褥瘡が発生してしまった場合に、治療よりも発生した原因を考え、環境を整えることが最重要ということを感じました。

褥瘡が悪化すると、全身状態が悪化し死の危険があることを念頭において、褥瘡がない施設を目指していきたいと考えます。日々の業務に追われて、仕事が作業にならないように心がけることも必要と感じます。そのためには、多職種連携を行い、協力し合うことが重要と感じました。

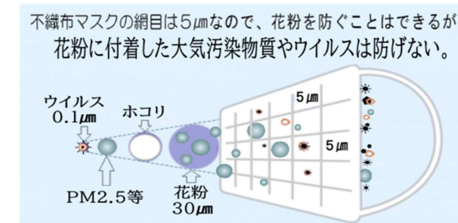
～運動指導員 かずちゃんの豆知識～

花粉症について

日本人の凡そ4割と言われる花粉症は、もはや国民病ですが、山の多い地方より、都市部でアレルギー反応が出るのは、花粉そのものでなく、花粉に付着した大気汚染(排気ガス、化学物質の粉塵、化石燃料による汚染、ケムトレイル、鉛等の重金属、黄砂、PM2.5...)をアレルゲンと考えた方が妥当です。1960年代(高度成長期)から花粉症が報告されている事からも、古くからの花粉が直接的な原因とは考え難く、雨後の飛散も解せません。サイズ的にも容易に侵入できないはずですが、実のところ花粉症の有無は、免疫を低下させる食生活(食品添加物など)やストレス、抗生物質による腸内フローラ(細菌叢)の悪化が大きく関わってきます。有害な花粉の侵入を涙やくしゃみ、鼻水で排出(デトックス)する仕組みは、正常な免疫応答ながら、症状が長引く過剰な反応は問題です。薬は一時的な対処法に過ぎず、抗炎症作用を強化する働き(制御性T細胞)が必要ですが、患い悩んでいる人は、腸内環境を整える食物繊維や発酵食品を積極的に摂って、小麦(グルテン)と乳製品(カゼイン)を少なくともシーズン1ヶ月前から断ち、免疫寛容に必要なビタミンDのサプリメントを試みて下さい(若しくは日光浴)。『サーファーに花粉症はいない』という機能性医学の本があるほどです。

次にマスクで花粉は防げるものの、表面に花粉が付着したままでは、便乗した汚染物質を屋内でも吸い込むことになり、PFAS(フッ素化合物)の問題もあります。また、着用中のマスクに繁殖する細菌・真菌のコロニーや(臭いが生じる)、糞便由来のセレウス菌や黄色・腐性ブドウ球菌まで検出されています(近畿大学医学部:調べ)。因みにウイルスの大きさは、不織布マスクの網目の1/50なので、感染予防効果はありません。サッカー・ゴールでピンポン玉は防げません(図を参照)。

以上を踏まえて、花粉症対策にマスクを使うなら、適切な着用と交換を心掛けましょう。



デイサービス介護士
運動指導員 谷野一義